

(2) 香取市の成果と課題・学習指導の改善について

小学校・国語 A

【成果】

- ① 「漢字を読む」
- ② 「故事成語の意味と使い方の理解」
- ③ 「新聞の投稿を読み、表現の仕方:を捉える」

【課題】

- ① 「情景描写の効果を捉える」
- ② 「物語の登場人物の相互関係を捉える」

【学習指導の改善】

① 読むこととの関連を図り、物語を創作する

描写の工夫（行動や表情、会話（内言）、風景など）の効果を理解することができるように指導することが大切である。その際、登場人物の心情などについて、直接的に描写されているものだけではなく、暗示的に表現されているものも捉えることができるように指導することが重要である。

物語を創作する活動においては、低学年の段階から、系統的・累積的に指導を行うことが大切である。

② 登場人物像や相互関係を捉える

登場人物の人物像を捉え、相互関係を明確にしながら読むことが重要である。そのためには、中心人物を押さえ、その人物と周囲の主な登場人物について、行動や会話文、情景描写などに着目しながら、それぞれの人物像が分かる言葉をカードに書き出し、整理するなどの指導が考えられる。その際、その中心人物を取り巻く登場人物がその中心人物をどのように見ているのか、物語の進行に伴ってどのように変化していくのかに着目できるようにすることが大切である。（例：物語を設定する上での実態的な関係・構造的な関係についてカードを並べ替えたり、関係図に表したりする。）

【成果】

- ① 「二つの詩を比べて読み、表現の工夫を捉える」

【課題】

- ① 「分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらに関係付けながらまとめて書く」
② 「詩の解釈における着眼点の違いを捉える」

【学習指導の改善】

- ① 分かったことや思ったことを、条件に応じてまとめた文章にして書く

必要な情報を取り出し、分類したり関係付けたりした上で全体を通して分かったことや考えたことを一定のまとめた文章にして書くことが重要である。その際、構成や記述などについて、条件を示すことが有効である。

○二文を一文にして書く。

- (1) 設問の該当場所を確認する。
(2) 接続語「また」をどのような言葉に置き換えることができるか挙げてみる。
・「～たり、…たり」 ・「～や」
・「～も、…も」 ・「～こと、…こと」
(3) 上記の接続語を使って、二文を一文にする。

○「例えば」という言葉を使って書く。

- (1) 解答の参考となる「例えば」の箇所を確認する。
(2) 二文がどのように書かれているかを説明する。
(3) (2)を踏まえ、「例えば」を使って書く。

- ② 詩の解釈における相違点の違いを捉える

詩を様々な着眼点から解釈し、考えたことを交流することが重要である。そのためには、自分の考えと相手の考えを比較しながら、共通点や相違点を整理することができるように指導することが大切である。その際、互いの考えを分類して、どのような着眼点に基づくものかを明確にすることが重要である。

【例】

北川 題名にもあるように、ぼくは「たんぼぼ」が呼んでいる声だと思うな。

※ 北川さんは「題名にもあるように」と述べていることから、題名に使われている言葉に着目している。

【成果】

- ① 「面のつながりや位置関係の理解」
- ② 「体積の単位（ 1 cm^3 ）と測定についての理解」

【課題】

- ① 「割合が1より小さい場合でも、比較量の求め方が（基準量） \times （割合）になることの理解」
- ② 「単位量当たりの大きさの求め方の理解」
- ③ 「円周の長さを、直径の長さを用いて求める」

【学習指導の改善】

- ① 基準量と比較量の関係を的確に捉え、それに基づいて演算の決定が確実にできるようにする

計算の指導に当たっては、計算の意味について理解すること、計算の仕方を考えること、計算に習熟し、活用できるようにすることの三者をしっかりと指導することが大切である。特に「計算の意味について理解すること」は、系統的に指導することが必要である。

- (1) 基準量と比較量の関係を観察し、的確に捉える。
- (2) 基準量と比較量の関係に基づいて、何算になるのかを判断する。このとき、整数倍の学習を想起し、数量関係を表している文脈が同じ時は、整数の場合で成り立つ式の形は小数の場合もそのまま活用できることを理解できるようにする。

【もとにする量 \times 割合=比べられる量】

- ② 既習のわり算の意味と関連付けて、単位量当たりの大きさを求める式を理解できるようにする

混み具合について、単位量当たりの人数で比べる際、的確に式を立て 1 m^2 当たりの人数を求めることが大切である。指導に当たっては、具体的な操作を示し、 1 m^2 当たりの人数を求める「 $16\div 8$ 」が等分除であり、16を8等分していることを捉えられるようにすることが必要である。

例えば、 1 m^2 当たりの人数を求めるために、 1 m^2 の区切りに16人を平均して配分した図から、「 $16\div 8$ 」という除法の式を立て、 1 m^2 あたりに2人いることを捉えられるようにする。

- ③ 直径、円周、円周率の意味を理解し、円周や直径の長さを確実に求めることができるようにする

円周率について学習する際には、作業的・体験的な活動を通して、直径の長さと円周の長さの関係を、実感を伴って理解できるようにすることが大切である。その理解の上から直径の長さから円周の長さを求めたり、円周の長さから直径の長さを求めたりすることが必要である。

【成果】

- ① 「全体と部分の関係を示すために用いるグラフを選択する」
- ② 「二人のリズムが重なる部分を、公倍数に着目して記述する」

【課題】

- ① 「示された情報を基に必要な量と残りの量の大小を判断し、その理由を記述する」
- ② 「繰り返されるリズムの規則性（周期）を見だし、それを基に小節数を求める」

【学習指導の改善】

- ① 問題の解決に必要な情報を選択し、根拠となる事実を関連付けることで、解決の方法や判断の理由を説明することができるようにする

問題を解決した過程を説明する際には、問題（文章や図、表、グラフ等）から必要となる情報を選択するとともに、根拠となる事実を関連付けて、判断の理由を的確に示すことが大切である。

例えば、10人分の量を基に40人分のスープの量を考える時に、残りの30人にスープを分けることができるかどうかを判断し説明することが考えられる。その際、スープを分けることができるかどうかを判断するためには、どのような根拠が必要になるのか、解決の見通しを明確にすることが大切である。また、見通しに基づいて、30人に必要なスープの量と残りの量を比較するために、それぞれの量を示された情報から的確に求めることが大切である。さらには、「10人分のスープの量が2Lなので、1L残る」といった判断の根拠となる事実が不足している説明を基に、よりよい表現に洗練していくことが考えられる。

- ② 事象を観察して、数量の変化や対応を図や表に表し、そこから規則性を見いだすことができるようにする

事象から規則性を見いだすことは、変化や対応の関係を基に処理することができるので、合理的、能率的に問題を解決していく上で大切である。

例えば、日常生活の事象や他教科の場面を取り上げ、その中にある数量関から規則性を見いだすことが考えられる。その際、事象を図や表に表し、数量の関係を調べる活動を取り入れることが大切である。例えば、繰り返し演奏するリズムを考え、アのリズムが4小節ごとに出現する規則性を見だし、 $4 \times 2 + 1$ で3回目に演奏する小節を特定できる。また、表に表すことで、1回目のアのリズムと2回目のアのリズムの差が4になっていることに気づき、3回目のアのリズムの小節を $5 + 4$ 、または、 $1 + 4 \times 2$ で求めることができると考えられる。